

心臓財団 季報

No.212

SEP. 10, 2013

◆ 公益財団法人日本心臓財団 ◆

〒 163-0704 東京都新宿区西新宿 2-7-1 小田急第一生命ビル 4 階
○ Tel 03-5324-0810 ○ Fax 03-5324-0822
○ e-mail : info@jhf.or.jp ○ URL : http://www.jhf.or.jp

平成25年9月10日(月)
通巻212号

2013年 健康ハートの日 ～皆様からのご支援で今年も開催できました～

日本心臓財団では、高齢化が進むにつれて増える心臓病に対応するには国民の予防意識の向上が不可欠であると考え、1985年、設立15周年を記念して8月10日が810(ハート)と読み取れることから、この日を『健康ハートの日』と決めました。

今年は8月10日が土曜日ということで、日曜日に開催してきた東京での健康イベントは、10日当日の土曜日に開催されました。また、豊橋、名古屋、岐阜で毎年行われる健康イベントも例年通り10日当日に行われました。

健康ハートの日 2013(東京)

東京では、昨年と同じ新宿高島屋1階JR口特設会場にて、無料の健康イベントが開催されました。循環器専門医による医療相談、管理栄養士による栄養相談、オムロンヘルスケア株式会社、フクダ電子株式会社の協力のもと体脂肪、簡易心電図、動脈硬化度測定、AED体験が行われました。

今回は、参加した医師、管理栄養士、各社スタッフから感想をいただきました。

【医療相談】

恒例の「健康ハートの日 2013」に参加した。大きな立看板に黒々と日本心臓財団の名が映えていた。新宿高島屋には一日、8万人余の客が入るといふ。これだけの人たちに「健康ハートの日」の声掛けをしたわけである。

「8月10日を健康ハートの日に」という呼びかけは1985年、日比谷公園音楽堂から行われた。翌年には江ノ島海水浴場で講演と健診活動を行った。当時の財団ニュースは江ノ島を訪れた30万人の海水浴客に呼びかけた、と書いている。今年も一般市民の方々のご寄附に加えて、オムロンヘルスケア、フクダ電子、管理栄養士など皆さんがボランティアで参加していただくことにより、開催できた。有難いことである。医療相談には上松瀬勝男先生、羽田勝征先生、細田瑛

一先生に協力いただいた。

医療技術関係企業の皆さんに休日返上をお願いするのは気になっていたが、むしろ人気があるのだそうである。説明相手が平素の医療関係者から直接の受益者である方々になるので、話し甲斐があるのだという。それは私達、財団職員も同じ思いである。市民の皆さん方の生の声を聞き、悩みを聞き、説明していると役立っているのだと強く自覚させられる。

72歳の男性。血糖が一時的に高くなったり、血圧が変動性であったりして、医者不信に陥っていた。話を聴きながら、処方内容から医者の考え方を解釈し、説明した。よいお医者さんではないでしょうか、といったら、ニッコリされた。67歳、女性。腰痛があつて難儀してい

る。不思議なことに、腰痛は歩いていると治るのだという。同じ悩みの私は、わが意を得たと蘊蓄を



講釈した。杖をついていた80歳の女性のデータは思いもかけず、若々しかった。ほんとうに顔の色つやがよい、とこれもほめてさしあげた。意識して行う健康管理がその身を守る。このイベントはそうしたきっかけを作ってくれるのである。

暑かった。事務局長が時折、打ち水をして回っていた。例年は小学生が群がるAEDの訓練には高齢のご夫婦の参加が目立った。隣りでは心電図に合わせて心臓の動きをモデルで示すシミュレーター「ハート・ナビ」が人目を惹いていた。これらはイベントの目玉でもある。次回はもっと目につく入口近くに移して、デモンストレーションしてもらおう、と夕方の反省会では話題になった。

1日、汗をかいて楽しかった。汗が出なければ1日の食塩は6グラム以下でよいのだが、多量に汗をかいた分は補給が必要であるという。この日の汗は何グラムに相当したのだろうか。考えてみるのも楽しかった。

(医師：杉本恒明)

【体脂肪測定】

体重、体脂肪率をはじめ、内臓脂肪レベルや骨格筋率などの「体組成」を、体重体組成計を用いて測定しました。体組成を知ることで、体のバランスを知ることができ、たとえば筋肉を増やして体脂肪を落とす健康的なダイエットができていくかどうかなどの参考にすることができます。

体脂肪率は10歳以上のお子さまから測定できるということもあり、さまざまな年代の方々に測定を体験いただくことができました。ご家族で来場されていた方々にも楽しみながら体験していただくことができ、「お父さん、もっと痩せなきゃ!」と娘さんに言われる方、「ママも一緒に体操しないとね」などとお子さまに語りかける方の姿も見られました。家族全員でお互いの健康を意識する、そのようなきっかけになったのであれば、とても嬉しいです。(オムロンヘルスケア スタッフ)

【心電図測定】

携帯型心電計を用いて、心電図をご自身で測定していただきました。心電図の波形だけではなく、測定結果を解析して「波形に乱れがあるようです」などのメッ



セージが表示されるので、状態をひと目で確認することができます。測

定結果はプリントアウトをしてお渡しすることで、医師の相談コーナーで活用いただけるようにしました。

心電図測定は、健康診断や人間ドックなど、特別な機会にしか行わないという方が多いこともあり、ブースには常に順番待ちの方がいらっしゃるほど、今年もたくさんの方に測定体験をしていただきました。家庭向けの携帯型心電計の存在を知らない方も多く、機器の説明をする中で、家庭や外出先で動悸などの症状が起きた時の波形を測定・記録し、その心電図を医師に見せて的確な診療に役立てていただくという携帯型心電計の特長を伝えることもできました。

(オムロンヘルスケア スタッフ)

【動脈硬化検査】

腕と足首の血圧や脈波を計測し、血管の硬さから血管年齢を推定する検査です。

“血管年齢”というキーワードが、大変被験者の皆様に好評を博していると感じました。また、リピーターの方が複数おり、改めてハートの日の有意義性を垣間見た感がありました。

大変人気のある検査で、今年用意した200番まで整理番号を記載したパネルは今後も必須と感じました。

暑さ対策は心臓財団の皆様の配慮もあり、特に問題は感じませんでした。

比較的高齢の方々が多く感じましたが、来年以降、比較的若い世代にもPRできる企画もあってよいと思いました。

(フクダ電子 スタッフ)

【AED体験】

人形を使って胸骨圧迫とAEDの使い方を実際に体験していただきました。AEDと救命講習に対する皆さんの意識が強いことがわかりました。

また、自分自身のことよりもむしろ家族のことを気にしながら講習を受けていた方々が複数見受けられ、改めて救命講習の重大さを感じました。

ただ、胸骨圧迫はかなり力が必要ですので、年配の方々には少し肉体的に負荷が強過ぎたように感じました。

来年は、親子参加型の企画も良いと思います。

(フクダ電子 スタッフ)



【栄養相談】

「健康ハートの日 2013」では、今年も管理栄養士グループ (Hearty Action) による体験型栄養相談を実施しました。

栄養相談コーナーでは、1日に必要とされている野菜 350g や飲み物に含まれる砂糖の量を体感してもらったり、料理カードを用いて食事バランスをチェックしてもらおう場を設けました。参加者の方々には、実際に必要な量に触ってもらうことで、日頃のご自身の野菜の量がどれぐらい必要量に足りていないのかを実感してもらえた様子でした。

今回、新しい試みとして、野菜に関するアンケートを実施しました。

2013年7月30日掲載の日経BPニュースに、「1日に必要な野菜の量を知らない人が8割」との記事が掲載されたのです。

全国農業協同組合中央会による夏野菜に対する意識調査の結果で、1日に必要な野菜の摂取量 350g を知っている人は 19.2%、知らない人が 80.8% でした。また、前日に摂取した野菜の種類は、「5種類」が 23.1%、「3種類」が 15.2% と、平均 4.9 種類でした。

当日、私たちが実施したアンケートの結果は、1日に必要な野菜の摂取量を知っている人が 43.2%、知らない人が 56.8% でした。また、前日に摂取した野菜の種類は、「10種類」が 18.9%、「6種類」が 13.5%、平均 6.9 種類となり、全国調査に比べ、かなり高い数字となりました (回答者数 37 名)。

今回、イベントに初めて参加した人が 86.7% であることから、こうしたイベントに参加する方の健康意識が高いことが推測されます。

野菜不足だと感じるかという質問には、「いつも感じる」が 24.3%、「時々感じる」が 35.1%、「あまり感じていない」が 18.9%、「感じていない」が 21.6% で、野菜不足と感じる時には「野菜ジュース」で補う人が 48.6% おり、半数近くの人が野菜不足を感じると野菜ジュースで補うことが考えられます。




実際の野菜 350g と野菜ジュース 1 パックを比べて見ると、栄養価の面ではとても近いので、どうしても野菜が不足してしまう外食中心の人には応急処置として有効です。

しかし、野菜ジュースには、本来の野菜に含まれる食物繊維の量が少なく、また保存料などの食品添加物が含まれています。旬の野菜を中心に、毎日野菜をできるだけ食べるように心がけましょう。

(Hearty Action、管理栄養士：濱田真里)

当日展示された1日に必要な野菜 350g

目安量：
 レタス 80g・人参 80g・
 ゴーヤ 40g・トマト 30g
 じゃがいも 100g・
 ピーマン 20g
 ワンポイント・アドバイス：
 野菜 350g のうち、1/3 は色の濃い緑黄色野菜を入れると良いでしょう。
 また、根菜類を使うと、重量は増やしやすいです。



第5回ハートの日 in 名古屋 ～生きることは動くこと～

名古屋国際会議場で行われた「ハートの日 in 名古屋」には、猛暑にもかかわらず約 800 名の参加がありました。

講演 I 「病んだ心臓の運動療法」として、「心臓手術の術前・術後の運動療法の効果」について名古屋ハートセンターの北村英樹先生から、心臓手術にはいろいろと不安があるでしょうが、①深呼吸、②食べる、③歩くことの3つができれば、心臓手術は乗り越えられるというお話があり、歩くための筋肉の鍛え方についても紹介がありました。

次に『『運動』 vs. 『安静』 どちらが NG? ~心臓病のための正しい運動療法』では、同センターの江原真

理子先生から、心臓リハビリテーション (心リハ) のすすめと運動の全身に対する効用についてお話がありました。心リハは運動療法だけでなく食事指導、生活指導、服薬指導など包括的なアプローチを行う心臓治療プログラムです。運動を行うと行わないのでは明らかに数年後の生命予後が変わるとのことです。

そして、元・名古屋フィルハーモニー交響楽団の熱田敬一氏指揮によるハートコンサート、救命講習、西川右近家元による日本舞踊とフィットネスを融合した NOS S の実演があり、最後に名古屋ハートセンター総長の外山淳治先生による講演 II 「いつからですか? 今でしょう」がありました。

この外山先生の趣味の登山の話から始まる講演の内容を紹介しましょう。

「山に登ると山頂に祠があり、滝や大木がしめ縄で飾られている光景をよく目にする。日本人には、人知を超えた自然を神として敬い尊ぶ風土がある。その中で育った私も自然の一部であり、そこには神が宿っている。

運動好きな私の最も身近な存在は「筋肉の神」である。登山で疲れ切った足に手を置き、神のご加護に感謝し、さらなるご尽力をお願いするとまた登り始めることができる。

科学的には、やや強めの運動をすると筋肉から神経栄養因子をはじめとする種々の栄養因子が生産され、血管・心臓・脳機能が活性化する。すなわち運動は血管の老化、認知症の予防となる。

個人にとり最も身近な神への願いは八百万の神々にも伝えられていると念じたい。なにはともあれ適度な運動習慣こそが「健やかな老い」の切符である。」

(ハートの日実行委員会の報告より)



第14回ハートの日 in GIFU ～メタボコントロールとこころのケア～

第5回ハートの日 in GIFUは『メタボコントロールとこころのケア』をメインテーマとして、『メンタルケア』『食事や運動』の側面から、心臓病の予防、メタボリックシンドローム予防を参加者に啓発しました。

本会は本年から、岐阜市の中心部に位置する『じゅうろくプラザ』で開催され、この夏一番の猛暑の中、300名以上の多数の来場者に恵まれました。

栄養教室では、岐阜ハートセンターの大西歩実管理栄養士に『食事療法を続ける秘訣～ストレスとうまく付き合おう～』と題して、「いかにメタボにならないように食事療法を続けるか?」といったお話を頂きました。そして桂川曜子管理栄養士より、『栄養士が考えるメタボ撃退弁当』と題して参加者に管理栄養士が作った弁当の試食が行われ、糖質を極力抑えた「血糖の上昇を抑えたメニュー」、減塩の「美味しくてもヘルシーなメニュー」をレシピを交えて紹介して頂きました。

一方、運動教室では『EZ DO エクササイズ!～内に秘めた脂肪を燃やそう～』と題して、岐阜ハートセンターの原康貴看護師の講演があり、続いて永井敬志理学療法士の実技指導により、来場者に家でもできる簡単なエクササイズを体験して頂きました。

講演・実技を通して「自分が少しでも興味がわくような楽しめる運動から始める事が重要!」という「うまく続ける秘訣」を紹介して頂きました。

社会が豊かになり健康意識の高まる昨今、誰しも「生活習慣病予防のために食事と運動が重要である」という意識はあるものの、「なかなか継続できない」と

いうことが実情だと思います。今回の健康イベントではそういった「なかなか継続できないメタボ対策をいかに続けるか?」という部分に焦点を当てた内容となりました。

続いて『メタボコントロールとこころのケア』メインテーマによるハート講演会が行われました。

飛騨千光寺住職の天下大圓先生は、病気になってしまった人に『生きる意味』を説くと同時に、ご家族を始めとするその周りの人の存在の重要性を説いて頂きました。また精神状況とそれ際に分泌されるホルモンについて科学的に示されていました。

次に高雄病院の江部康二先生には、『糖尿病、肥満の真犯人は?』と題して書籍やメディアでも話題の糖質制限食について最新の話題をご講演いただきました。様々なデータから『糖質』が影響している事を説かれ、糖質制限食の有効性や、世界各国での糖質制限食の位置づけについて説明されていました。

講演の後、岐



阜ハートセンターの上野勝己院長の司会のもとに『座談会』を行い、専門的な内容もあった講演会の内容を、それぞれの演者の個人的な実体験やそれにまつわるエピソードで、とてもわかりやすく総括されています。

した。

来年以降も地元住民の皆様の健康に資する『ハートの日』を続けていきたいと思えます。

(ハートの日実行委員会の報告より)

第14回ハートの日in 豊橋 ～がんにかからない食事～

本年の健康ハートの日は、土曜日ということもあり、1,000人以上の方々にご来場いただき、盛況に終了できました。

例年、健康ハートの日ということで心臓疾患を中心にプログラムしてまいりましたが、本年は、日本の死亡原因第一位である「がん」をトピックとして取り上げ、特に食事の重要性について議論することにしました。

結果、非常に多くの来場者があった背景には、がんの治療施設が少ない東三河地区の医療に対して、市民の意識が高いことを示唆する結果と考えられます。

今回はいつものプログラムにミニレクチャーを新規に追加しました。内容は、管理栄養士、歯科医師、野菜農家、健康食講師など、多岐にわたる講師を招聘し、30分ずつ講演を行いました。100席が満席になるほど盛況に行うことができました。

その他としては、地元東三河のプロバスケットボール



チームのブースを設置、チームをより知っていただき、市民とふれあう機会を設けました。

救急蘇生講習会では、豊橋、田原、新城の救急隊の先生に講師役を務めていただき、熱心に講習会を実施していただきました。

さて、本会のメインであります講演会では、崇城大学DDS研究所の前田浩特任教授に野菜に含まれるファイトケミカルの抗がん作用、いかにその成分を食事で摂取するかという内容で、難しくなくわかりやすい内容で明日からできる食事方法をお話いただきました。

もう一つの講演は、東洋医学や漢方、がんの代替医療を専門にしている銀座東京クリニックの福田一典先生にお話いただきました。がんに対する食事療法、特に、グルコースを摂取しないことががん予防、がん再発予防に有用であるという内容でした。

座談会では、豊橋ハートセンターの鈴木孝彦先生、松原徹夫先生、ゲスト司会者として地元東海ラジオの番組パーソナリティーの蟹江篤子さんにご参加いただき、楽しく、そしてわかりやすい「がんの食事」について討論を行いました。

来年も、今年以上にご参加いただけるような内容で、一般市民の方々に医療に対する意識向上、そして最新の情報を発信してまいりたいと考えております。

(ハートの日実行委員会の報告より)



第5回『全国でPUSH!』運動が行われました

当財団とNPO大阪ライフサポート協会が提唱し、健康ハートの日(8月10日)を記念して、全国のNPOなどと連動して一斉に各地でPUSHコース(胸骨圧迫+AED)を短時間で実技指導)を開催する「全国でPUSH!」運動は、今年で第5回目を迎え、8月2日から25日までの間、全国22会場で開催されました。

全国各地でご協力いただいた有志の皆さんのご努力で、例年に遜色のない取り組みが活発に行われたことは「継続は力なり」の言葉のとおり、今後の心肺蘇生と

AED活用普及におおなる力となるものと思われま。

また、特徴のある動きとしては、全国心臓病の子どもを守る会岩手支部と連携した岩手での取り組み、サッカーの故松



松本



東京



大阪

田直樹選手をメモリアルする行事と連動した長野での開催、自治会行事と連動した大阪豊中や、新しくオープンした大阪梅田のグランフロントを会場とした取り組み、病院の職員と子どもを中心に「夏休み親子救命教室」を開催した徳島の取り組みなどがあげられます。各地の実情に応じて、さまざまな取り組

みがなされていることは真に喜ばしい限りです。

来年はもっと早期から各地に連絡し、さらに活発に開催されるよう努力していきたいと思ひます。



徳島

【本年度の開催地】

釧路(北海道)、八幡平(岩手)、酒田(山形)、仙台(宮城)、藤岡(群馬) 港区(東京)、世田谷区(東京)、府中(東京)、松本(長野)、岐阜(岐阜)、菰野(三重)、福井(福井)、大津(滋賀)、北区(大阪)、豊中(大阪) 2会場、養父(兵庫)、篠山(兵庫)、丸亀(香川)、坂出(香川)、小松島(徳島)、北九州(福岡)、以上22会場

事務局よりお知らせ

仮設住宅のAED

日本心臓財団と日本循環器学会では、2011年に東北大震災による仮設避難所および仮設住宅へのAED貸出しを行いました。

仙台市の仮設住宅集会所に配置されたAEDの写真が仙台市役所より届きました。震災後2年半が立ちま



しましたが、こうしてはまだ仮設住宅で暮らしている方が大勢いらっしゃいます。早くもとの生活に戻れるよう、お祈り申し上げます。

会議室のご利用とハート・ナビ貸出をご活用ください。

医療関係者の皆さんが気軽に利用できるよう、日本心臓財団事務局では、会議室を無料提供しています。広さは43平米。最大20人まで机と椅子で着席できます。

詳細は事務局までお尋ねください。

また、日本循環器学会展示ブースおよび東京での健康ハートの日イベントで展示いたしました拍動心モデル「ハートナビ」をイベントや講習会等に無料で貸出しいたします(送料のみご負担ください)。AED使用時の心臓の状態(正常な心拍動→心室細動→除細動への変化)や各種不整脈時の心拍動を心臓モデルとモニター上の心電図が連動して見せることができます。



平成25年度日本心臓財団研究奨励募集

明日を担う若手研究者を対象に、心臓血管病(心臓病、脳卒中、高血圧、動脈硬化症等)の成因、治療あるいは予防に関する独創的研究に対し助成を行います。

また、本奨励応募者の中から、基礎研究者および女性を対象とした入澤宏・彩記念研究奨励の助成も行います。

なお、本年度より、第1回日本心臓財団拡張型心筋症治療開発研究助成(ほのかちゃん基金)を実施します。こちらには年齢制限はありません。

皆様の意欲ある独創的研究の応募をお待ちしております。

1. 研究奨励金および応募資格

(1) A 第39回日本心臓財団研究奨励

1件200万円を10件。

わが国に在住し、心臓血管病の基礎、臨床または予防に携わる40歳未満の研究者(1973年4月1日以降に生まれた者)。

B 第4回日本心臓財団入澤宏・彩記念研究奨励

1件100万円を3件。

Aの応募対象者のうち基礎研究室に所属する研究者(1973年4月1日以降に生まれた者)。

C 第4回日本心臓財団入澤宏・彩記念女性研究奨励

100万円を1件。

Aの応募対象者のうち女性研究者(1973年4月1日以降に生まれた者)。

(2) 第1回日本心臓財団拡張型心筋症治療開発研究助成(ほのかちゃん基金)

1件200万円を2件。

わが国に在住し、拡張型心筋症の基礎、臨床または予防に携わる研究者。年齢制限はありません。

なお、応募はひとり1件に限ります。研究奨励金を受けた者は、同一の研究奨励に再度応募できません。

2. 応募方法・期間

平成25年9月1日～10月15日。当財団ホームページの応募要項をご覧の上、応募用紙をダウンロードし、必要事項を記載して事務局宛、メールと郵送にてお送りください。

ほのかちゃん基金による日本心臓財団 拡張型心筋症治療開発研究助成について

平成20年に拡張型心筋症を患い心臓移植のためドイツに渡航したものの、移植手術を受けられずに帰国し、現在国内で治療中の福本穂香ちゃんを支援する「ほのかちゃんを救う会」より、渡航時に集まった寄附金の残余金が、日本心臓財団をはじめ、4団体に寄附されました。

当財団では、心筋の再生医療研究等による拡張型心筋症の治療開発を促進することが、拡張型心筋症をはじめとする心筋症の小児が心臓移植を待つことなく治療できる最善の方法の一つであると考え、「ほのかちゃん基金」を設立し、研究助成を実施することとしました。

毎年200万円を2件、6年間の研究助成を実施いたします。応募の年齢制限はありません。穂香ちゃんをはじめとする多くの方々の福音になるような早期の臨床応用が期待できる研究の応募を期待しております。

第27回日本心臓財団・バイエル薬品海外留学助成募集

日本心臓財団では、バイエル薬品株式会社の協力を得て、循環器領域の少壮研究者が海外の研究機関等に留学し、独創性のある研究や萌芽的な研究を行う場合の渡航費ならびに滞在費の一部を補助するための海外留学助成を実施しています。

1. 助成対象

心臓病・脳卒中・高血圧・動脈硬化症等の循環器領域の研究に携わる研究者

2. 助成額

1件300万円とし原則として10件

3. 応募資格

次の事項のすべてに適合する者

- 1) 初めての海外留学であること
- 2) 40歳未満(1974年4月1日以降生まれ)で日

本在住であること

- 3) 1年以上留学し、帰国後日本の学術振興に寄与すること
- 4) 留学先研究機関の責任者または受入者の承諾を得ていること
- 5) 一定の研究業績を有すること
- 6) 2014年4月1日～2015年3月31日の間に出版の予定であること

4. 応募方法・期間

10月1日～11月30日。

当財団ホームページの応募要項をご覧の上、応募用紙をダウンロードし、必要事項を記載して事務局宛、メールと郵送にてお送りください。

ご支援ありがとうございます

本年度も賛助会員としてご支援をいただいた方々に厚く感謝申しあげ、ご芳名を掲載させていただきます。

(敬称略：2013年5月～8月)

青沼 和隆	大和田 憲司	楠川 禮造	高木 宏	林 輝美	道場 信孝
足達 寿	岡島 光治	久保田 徹	高野 照夫	早野 元信	皆越 眞一
天野 哲也	岡田 幾太郎	倉林 正彦	高橋 克敏	半田 俊之介	宮垣 武司
飴谷 恭平	岡山 明	甲谷 哲郎	高松 道生	比江嶋 一昌	宮崎 治浪
有坂 實	小川 勝	古賀 義則	竹越 襄	檜垣 實男	村田 和彦
有田 眞	奥村 謙	小島 章	武田 信彬	東崎 喜代乃	村田 勝敬
飯村 攻	奥村 健二	児玉 安司	田中 弘允	平田 恭信	望月 茂
石井 當男	小澤 利男	小柳 仁	田中 元直	平山 篤志	本宮 武司
和泉 徹	小野 高史	近藤 高明	津上 賢治	日和田 邦男	百村 伸一
市川 悦	尾前 照雄	金野 秀美	塚本 宏	柁山 幸志郎	矢崎 義雄
市田 露子	片見 初江	斎藤 能彦	辻 幸臣	福田 恵一	安井 健二
伊藤 圭介	加藤 正明	坂本 三哉	堤 明純	福田 孝太郎	安井 昭二
伊藤 貞嘉	金丸 憲司	篠山 重威	鶴谷 嘉武	福田 宏嗣	矢永 尚士
伊藤 七郎	加納 達二	佐田 政隆	富永 隆治	藤本 善英	矢吹 壮
伊藤 隆之	河合 忠一	佐藤 和徳	永井 良三	細田 瑳一	山下 武志
井上 博	河北 俊子	猿田 享男	中川 正裕	細野 清士	山田 和生
今村 聡	川田 志明	島田 和幸	長澤 一成	堀 正二	山村 憲
入江ふじ子	川田 治義	庄田 隆	中野 赳	本莊 晴朗	家森 幸男
岩 喬	河野 雄平	白土 邦男	中原 容	松浦 秀夫	横山 光宏
上田 一雄	河村 慧四郎	杉 薫	西川 章	松尾 裕英	吉澤 潔
浦 信行	上松 瀨勝男	杉澤 和美	沼口 宏太郎	松岡 博昭	由田 克士
江藤 胤尚	北 畠 顕	杉本 恒明	伯野 大彦	松崎 益徳	吉田 雄平
大石 充	北村 明彦	須磨 幸蔵	橋場 邦武	松永 正人	吉松 秀明
大川 眞一郎	木之下 正彦	住吉 昭信	長谷部 直幸	松本 万夫	渡辺 務
大蔵 隆文	木原 康樹	清野 精彦	馬場 俊六	三浦 傳	
大島 文雄	楠岡 英雄	千田 彰一	早川 弘一	水重 克文	他匿名40名

当財団へご寄付をいただいた方

次の方々からご寄附を賜りました。ここに厚く感謝申しあげ、ご芳名を掲載させていただきました。

(敬称略 2013年5月～8月)

鎌田 信夫 村上 勝彦 木村美佳子
 大林 完二 小野清四郎 佐川 清
 吉田 雄俊 ランドン IP 合同会社

他匿名10名

■小さなハートをつなぐ基金

一ノ谷 武志 仲田 大輔 AIRG (あいある)

他匿名1名

寄附のお願い

日本心臓財団は、循環器疾患を克服するため、研究助成、予防啓発、さらに循環器病に関する皆様か

らのメール相談などを行ってまいりました。今後もこのような活動を継続させていただけますよう、皆様からのご支援をお待ち申し上げます。何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

当財団は公益財団法人の認定を受けておりますので、当財団へのご寄附は税法上の優遇措置が適用され、所得税(個人)、法人税(法人)の控除が受けられます。

また、税額控除に係る証明を取得しておりますので、個人の方からのご寄附については所得控除と税額控除のいずれか一方を選択いただくことができます。

郵便振替口座 00140-3-173597
 宛て先 公益財団法人日本心臓財団